ED-010

ECO ACTION 21

第85期　環境経営レポート

Environmental Management Report

期間 ： 2025年6月1日～2026年5月31日

日本ゼトック株式会社

目次

CONTENTS

Environmental Management Report

1. 組織の概要 …… 3

2. 対象範囲 …… 4

3. 環境経営方針とTop Message …… 5

4. 日本ゼトックの歴史…… 7

5. 環境経営目標(85期) …… 8

6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(85期) …… 9

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(85期) …… 14

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(86期) … 25

9. 環境関連法規 …… 29

10. その他の活動実績 …… 30

11. 代表者による全体の評価と見直し・指示 …… 36

1. 組織の概要

(1)事業所名及び代表者
会社の名称 日本ゼトック株式会社(NIPPON ZETTOC CO.,LTD.)
代 表 者　代表取締役会長兼CEO 牧田 裕樹
　　代表取締役社長兼COO 森山 正孝

(2)所 在 地
<本社>
東京都新宿区西新宿一丁目26番2号 新宿野村ビル12F
TEL:03-5323-2020(代表)　FAX:03-5323-3010(代表)

<相模原事業所>
神奈川県相模原市緑区大山町1番5号
TEL:042-775-8700(代表)　FAX:042-775-7012(代表)

<大阪営業所>
大阪府大阪市中央区安土町三丁目2番4号JUST本町ビル7F
TEL:06-6262-6881(代表)　FAX:06-6262-6601(代表)

<新生富山事業所(※)>

(3)環境管理責任者氏名及び連絡先
環境管理責任者:江尻 茂之
TEL:03-5323-2020　FAX:03-5323-3010
E-mail:s-ejiri@zettoc.co.jp

(4)事 業 活 動
医薬部外品・化粧品・医療機器および日用雑貨の研究開発ならびに製造販売

(5)事 業 規 模
設立　1954年(昭和29年)2月12日
資本金　9,600万円
売上高　16,110百万円(85期/2025年6月1日~2026年5月31日)

	従業員数（人）	延床面積（m2）
本社	70	572.28
相模原事業所	366	24,093.43
大阪営業所	2	70.60
新生富山事業所	25	3,161.09

従業員には派遣社員、パート等を含む(2026年5月31日時点)

(※)当社新生富山事業所は、当社の事業戦略に基づく取扱い製品の見直しおよび経営効率化の一環として、2026年5月末をもって操業を停止いたしました。これに伴い、同事業所については2026年6月30日をもって閉鎖いたしました。

エコアクション21 認証番号 0009069

さがみはら SDGs パートナー

みつけてみて! ZTC 日本ゼトック

2. 対象範囲

REPORTING PERIOD
レポート対象期間　2025年6月1日～2026年5月31日

レポート発行日　2026年8月31日

認証・登録の範囲

- 本社
- 相模原事業所
- 大阪営業所
- 新生富山事業所

二酸化炭素排出係数

今回のレポートで使用した「二酸化炭素排出係数（電気は調整後）」は、以下の通りです。

	サイト	電気（t/kWh）	ガソリン（t/L）	軽油（t/L）	都市ガス（t/m3）	LPGガス（t/m3）
85期 実績値算出用	本社	0.000443	0.00232	-	-	-
	相模原	0.000443	0.00232	0.00258	0.00223	-
	大阪	0.000334	-	-	-	-
	富山	0.000466	0.00232	-	-	0.00655

	サイト	電気（t/kWh）	ガソリン（t/L）	軽油（t/L）	都市ガス（t/m3）	LPGガス（t/m3）
86期 目標値算出用	本社	0.000452	0.00229	-	-	-
	相模原	0.000452	0.00229	0.00262	0.00204	-
	大阪	0.000415	-	-	-	-

3. 環境経営方針とTop Message

“今までも、これからも
化学の力でお客様の笑顔を創造する”

1954年に設立された日本ゼトックは、
「私たちは人々の幸せと健やかなる未来を創造し、世界中に笑顔を届けてまいります」という
ミッションのもと、70年以上にわたり高品質な製品を提供してまいりました。

国内では、歯磨き剤を中心に高機能なオーラルケア製品のシェアを拡大し、
化粧品分野でも薬用保湿スキンケア化粧品「ヘパトリート」が
市場で注目を集めるなど自社ブランドの展開にも力を注いでおります。

海外市場においては、中華圏やＡＳＥＡＮ諸国を中心に市場を拡大し、
世界中の皆様の健康に寄与できる存在を目指しております。

お客様の健康を実現するために、培って参りました技術力と開発力を総動員し、
独創的で多様な製品開発と更なる品質向上を追求することで、
皆様から信頼される企業として、持続可能な貢献を果たすべく全力を尽くしてまいります。

代表取締役社長兼COO
森山 正孝

環 境 経 営 方 針

【環境経営方針】

当社は、変化の激しい事業を取巻く状況がうむ課題とチャンスを踏まえ、当社ミッション・ビジョン・パーパスを念頭に、全ての事業活動を通じて、地域社会への貢献と地球環境の保全に、全社一丸となり、継続的改善をしながら積極的に取り組むことを誓います。

【環境経営方針実現のための行動指針】

◆環境に関する法規制等につき、その遵守を誓います。

◆環境目標を定め、環境負荷に対して継続的な改善に努めます。
- ・電気消費量の削減を中心に、二酸化炭素排出量削減に取り組みます
- ・産業廃棄物の削減を中心に、廃棄物排出量削減に取り組みます
- ・上水、井水の排水状況を管理し、総排水量削減に取り組みます
- ・当社で使用する化学物質の管理を徹底します

◆当社が提供する製品等につき、環境への配慮を推進します。

◆ESG経営・SDGsを推進します。

◆環境経営方針を全従業員に周知します。

◆当社が行なう環境に関する活動を広く社会に発信します。

2023年8月29日　改定

日本ゼトック株式会社　代表取締役社長　森山正孝

4. 日本ゼトックの歴史

PHILOSOPHY

日本ゼトックについて

“明るく幸せな毎日は健康であることが基本である”を念頭に、日本ゼトックはさまざまな製品を送り出してきました。

私たちが守り続けてきたのは、「化学の力でお客様の健康をサポートする」という企業姿勢です。これからも世界中のお客様に笑顔を届けてまいります。

HISTORY

沿革

日本ゼトックの モノづくりとこだわりの歴史

創業以降、「化学の力による効能の発見と証明」「効能を広く人々に提供していくためのモノづくり」へのこだわりは、脈々と受け継がれています。

1954	東京都世田谷区にわかもと製薬㈱の関係会社日本ゼオラ㈱として設立。歯石沈着予防成分ゼオライトを基剤とした薬用歯磨「ゼオラ」の生産を開始。
1964	米国メンネン社（現コルゲート社）と技術提携し、男性化粧品およびベビー化粧品を開発し、生産を開始。
1974	全薬工業（株）と提携し、日本初の塩化リゾチーム配合の歯槽膿漏予防用高機能歯磨き剤「デンキュア」（特許製品）を開発し、生産を開始。
1985	藤沢薬品工業株式会社（現・第一三共ヘルスケア株式会社）と提携を開始。「クリーンデンタル」並びに「フジサワデンタルE」を開発し、生産を開始。
1990	社名を現社名（日本ゼトック（株））に改称し、本社を東京都千代田区丸の内から東京都千代田区九段へ移転。
1993	15年に及ぶ臨床試験を経て、（株）サンギと共同研究を進めてきた薬用ハイドロキシアパタイトが日本で初めて厚生労働省中央薬事審議会より新有効成分として承認され、薬用ハイドロキシアパタイト配合歯磨「アパガードM」が広く認知される。
1995	「アパガードM」の大ヒットによる歯磨き剤増産のため、歯磨き剤調剤設備を増設、主要充填・包装ラインを全自動化。
2002	独自の乳化技術である、エマルション製法を確立し、リンゴ種子エキス配合のスキンケア化粧品シリーズ「ポミエ」を自社販売として発売、通信販売を開始。
2008	工場を神奈川県相模原市淵野辺から神奈川県相模原市緑区大山町（橋本）へ移転。
2012	上海に現地法人「泽透克(上海)商贸有限公司」を設立。大阪市中央区安土町に「大阪営業所」を開設。
2014	相模原事業所に2号棟を増設。本社を東京都新宿区の新宿野村ビルに移転。
2020	生産能力増強の為、相模原事業所に3号棟を新設、新生富山事業所を増床。
2022	相模原事業所の歯磨き剤年間生産数が1億本を突破。
2023	チューブ製造機を導入し、ラミネートチューブの生産を開始。
2024	アメリカ航空宇宙局（NASA）の技術を応用し、（株）サンギと共同開発を行った薬用ハイドロキシアパタイト配合歯磨が「Space Technology Hall of Fame®」にて、日本企業として初めて“殿堂入り”。

5. 環境経営目標(85期)

事業所	項目	目標
本社	CO2排出量	電力使用量の維持(kWh)、CO2排出量の維持(t)
	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類)の削減(kg)、再資源廃棄物(機密書類溶解廃棄、シュレッダー、段ボール、古新聞)の削減(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	CSR活動	CSR活動の提案・実施、エコ関連情報発信
相模原事業所	CO2排出量	電力使用量の増加率と原単位削減(kWh)、電力購入量の増加率と原単位削減(kWh)、ガス使用量の増加率と原単位削減(m3)、ガソリン使用量の増加率と原単位削減(L)、軽油使用量の増加率と原単位削減(L)、CO2排出量の増加率と原単位削減(t)
	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)量と原単位削減(kg)、廃プラスチック類量と原単位削減(kg)
	上水使用量	上水使用量の増加率の削減と原単位削減(m3)
	排水量	排水量の増加率の削減と原単位削減(m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	生物多様性保全活動	生物多様性保全活動の実施
	製品開発	製品開発において環境に配慮した施策を行う

事業所	項目	目標
大阪営業所	CO2排出量	電力使用量の維持(kWh)、CO2排出量の維持(t)
	上水使用量	上水使用量の維持(m3)
	一般廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類、機密書類溶解廃棄、ペットボトル)の削減または維持(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	製品開発	環境に配慮した製品の開発
新生富山事業所	CO2排出量	電力使用量の削減(kWh)、LPG使用量の削減(m3)、ガソリン使用量の削減(L)、CO2排出量の削減(t)
	廃棄物量	産業廃棄物量の削減(kg)
	上水使用量	上水使用量の削減(m3)
	下水排出量	下水道排水量の削減(m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施
	生物多様性	生物多様性保全活動の実施

※背景の写真は相模原事業所に設置している
太陽光発電設備の一部です

6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容（85期）

	項目 ※1		環境経営計画	取組内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	間引き照明を徹底する	○
			使っていない電気機器の電源オフを実施する	◎
			周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める	◎
2	一般廃棄物量	最終処分廃棄物（一般ごみ・紙類）の削減 再資源廃棄物（機密書類溶解廃棄、シュレッダー、段ボール、古新聞）の削減	排出量の現状把握と管理	◎
			使用済み封筒・可能な裏紙の再利用	○
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP	○
			ゴミ削減（eco）の意識の徹底の為の施策を実施	○
			据え付け紙コップ使用を最小限に留める。マイボトル、マイ水筒等を使用する	◎
3	物質使用量	コピー用紙の削減	使用量の現状把握と管理と、周知の徹底	◎
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			両面、集約等の機能を有効活用	◎
			印刷した印刷物を必ず回収する	◎
4	CSR活動	CSR活動の実施	自社発信の活動への参加を検討する	○
			野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地域におけるCSR活動への参加も検討する	○
			社内へエコに関する情報発信をする	○

本社

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要
※1 本社では、化学物質の使用はなく、上下水量はビルで一括管理しているため、計画項目に盛り込んでいない

デコ活 の第一歩！

買い物から帰ってきたら、「あれ！この食材、まだあった・・・」そんな経験はありませんか？
事前に冷蔵庫をひと目チェックするだけでも、食材の買いすぎや使い忘れを防ぐことができますが、
忙しくてついついチェックを忘れてしまったり、ということもありますよね・・・！
食べ物を無駄にせず、上手に食べきることは環境にもお財布にもうれしい習慣ですし、
ちょっとした意識の向上も、脱炭素につながる「デコ活」の第一歩です。
店頭の“てまえどり”にもぜひ協力したいですね！

※デコ活とは「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称であり、二酸化炭素（CO_2）を減らす（DE）脱炭素（Decarbonization）と、
環境に良いエコ（Eco）を含む“デコ”と活動・生活を組み合わせた新しい言葉です。（引用元：環境省HP https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/ ）

6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(85期)

	項目		環境経営計画	取組内容
1	CO2排出量	電力使用量の増加率の削減と原単位削減 電力購入量の増加率の削減と原単位削減 ガス使用量の増加率の削減と原単位削減 ガソリン使用量の増加率の削減と原単位削減 軽油使用量の増加率の削減と原単位削減 CO2排出量の増加率の削減と原単位削減	共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理(夏季26℃、冬季22℃)	○
			不在時の消灯実施、省エネモードの活用	◎
			空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄	◎
			コンプレッサーのエアー漏れ箇所の改善	△
			社有車のアイドリングストップ	◎
			太陽光発電の活用	◎
			空調熱源機の運転調整(夏季)	○
			電気温水器及びウォシュレットの暖房機能停止(夏季)	◎
2	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)量と原単位削減	残バルクの低減	○
			ロットアウトの低減・改善	○
			汚泥のリサイクル(セメント)の実施	◎
		廃プラスチック類量と原単位削減	再資源化の検討	◎
			不用品廃棄・削減	◎
			廃プラスチック類のコンパクト化	◎
			プラスチックのリサイクル(擬木化)の実施	◎
3	上水使用量	上水使用量の増加率の削減と原単位削減	効率的なバルク製造	○
			節水の実施	○
4	排水量	排水量の増加率の削減と原単位削減	効率生産による洗浄回数の改善	○
			節水の実施	○
5	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質	現状の把握と管理	◎
			バルクロットアウトの低減・改善	○
6	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
			ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	◎
7	生物多様性 保全活動	生物多様性保全活動の実施	地域の活動に参加	△
			相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミシマサイコを育成・栽培、新生富山事業所への展開	◎
			従業員への啓蒙	○
8	製品開発	製品開発において環境に配慮した施策を行う	環境に配慮した製品の開発を行う	◎
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	◎
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	◎
			環境に配慮した製品仕様を検討する	◎
			SDGsに関する勉強会に参加する	◎

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要

相模原事業所

6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容（85期）

	項目 ※1		環境経営計画	取組内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	不在時と休憩時間の消灯実施	○
			使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
			夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
2	上水使用量	上水使用量の維持	節水を心がける	◎
3	一般廃棄物量	最終処分廃棄物（一般ごみ・紙類、機密書類溶解廃棄、ペットボトル）の削減または維持	排出量の現状を把握	◎
			使用済み封筒等再利用徹底	○
			印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める	◎
			ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底	◎
4	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
			ペーパーレスの推進（FAXのペーパーレス等）	◎
			電子ファイル化推進	◎
5	製品開発	環境に配慮した製品の開発	環境に配慮した製品の開発を行う	◎
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	○
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	○
			環境に配慮した製品仕様を検討する	○

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要
※1 大阪営業所では、化学物質の使用はないため、計画項目に盛り込んでいない

大阪営業所

環境 QUIZ

温室効果ガスは、二酸化炭素・メタン・一酸化二窒素の3種類だけである。

○か×か？

（答えは次のページに掲載）

6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容（85期）

	項目		環境経営計画	取組内容
1	CO2排出量	電力使用量の削減 LPG使用量の削減 ガソリン使用量の削減 CO2排出量の削減	不在時と休憩時間の消灯実施	◎
			使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
			夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
			社有車のアイドリングストップ	◎
2	廃棄物量	産業廃棄物量の削減	印刷物の裏紙の再利用	○
			不良品廃棄の削減	○
3	上水使用量	上水使用量の削減	節水の実施	◎
			上水使用量を毎月測定し管理する	○
4	下水排出量	下水道排水量の削減	節水の実施	○
			下水道排出量を毎月測定し管理する	○
5	化学物質の管理	化学物質使用量現状維持：PRTR制度対象物質	PRTR制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、管理する	○
6	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	○
			両面・集約等の機能を活用	○
			ペーパーレスの推進（FAXのペーパーレス等）	○
7	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施	周辺地域のゴミ拾い活動をする	○
8	生物多様性	生物多様性保全活動の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培・啓発の実施	△

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要

新生富山事業所

環境 QUIZ ?

答え：×

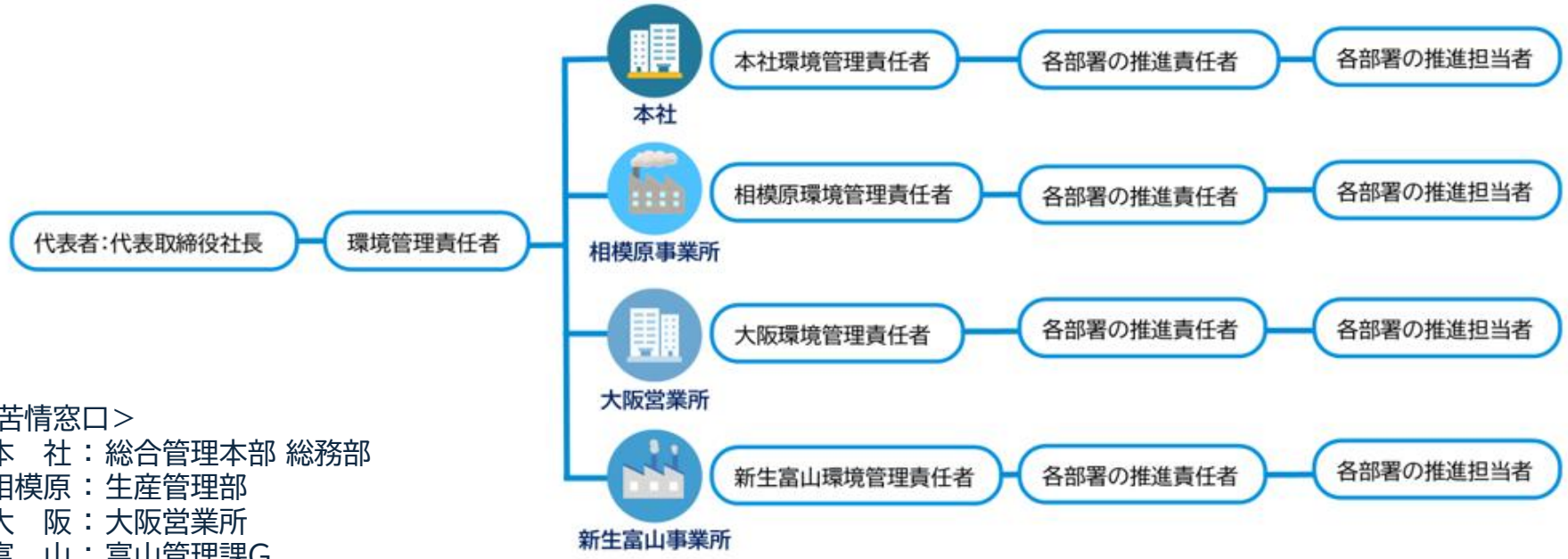
温室効果ガスは、この3種類だけではありません。日本の温室効果ガス排出量の算定対象には、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素に加え、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素の計7種類（区分）があります。なお、水蒸気なども温室効果を持つため、温室効果ガスそのものが7種類に限られるわけではありません。

出典元：環境省「温室効果ガスインベントリの概要」より
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg-mrv/overview.html

（問題は前のページに掲載）

6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容（85期）

（エコアクション21推進組織図）



＜苦情窓口＞
本　社：総合管理本部 総務部
相模原：生産管理部
大　阪：大阪営業所
富　山：富山管理課G

本社

相模原事業所

大阪営業所

新生富山
事業所

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価（85期）

～HIGHLIGHTs～

（各取組の目標達成項目から抜粋）

本社

一般廃棄物最終処分量削減

基準年（81期）比

△74.3%

相模原事業所

CO_2排出量削減

基準年（81期）比

△70.4%

基準年(78期※1)比

※1 事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定

△87.6%

大阪営業所

コピー用紙使用量削減

基準年（81期）比

△95.0%

新生富山事業所

ガソリン使用量削減

11件

相模原事業所

環境に配慮した商品の開発件数

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価（85期）

◆エネルギー		電気使用量（kWh）					
		81期（基準年）	目標値		85期実績		
本 社	総 量	27,230	25.868～28.591	±5%	23,260	△14.6%	目標達成
相模原	使用量	6,018,643	+4.7%以下		6,739,259	⇧12.0%	目標未達
	購入量	5,617,696	+4.7%以下		6,051,742	⇧7.7%	目標未達
	原単位（使用量）	0.567	0.550	△3%	0.606	⇧6.9%	目標未達
	原単位（購入量）	0.529	0.513	△3%	0.544	⇧2.8%	目標達成
大 阪	総 量（※1）	6,427	6,106～6,748	±5%	6,339	△1.4%	目標達成
富 山	総 量	855,615	812,834	△5%	688,181	△19.6%	目標達成

81期中に相模原事業所にて、太陽光発電設備を設置しています。
次ページでモニタリング画面例をご紹介！

本社

前期より引き続き、時差出勤の実施下での測定となりました。不在室の消灯実施や社内TV・PCなどの省エネモードの意識の浸透により、電力使用量は目標を上回る達成となりました。
引き続き使用量の低減に努めて参ります。

相模原事業所

85期の電気使用量は基準年と比較して12.0%の増加となりました。大幅な受注量増加に伴い生産時間が増加したため，エネルギー使用量が増えたことが要因となっています。購入電力量も基準年と比較し7.7%増加しましたが、電気使用量よりも増加率は低いため、太陽光発電の効果が確認されました。
（購入電力量の原単位については基準年と比較して2.8%の増加に留まり、生産量増加率以下となりました。）

特に電気使用量については85期の生産量増加率4.7%を上回ってしまったため、来期以降、節電と効率的なエネルギー使用に努めたいと考えています。

新生富山事業所

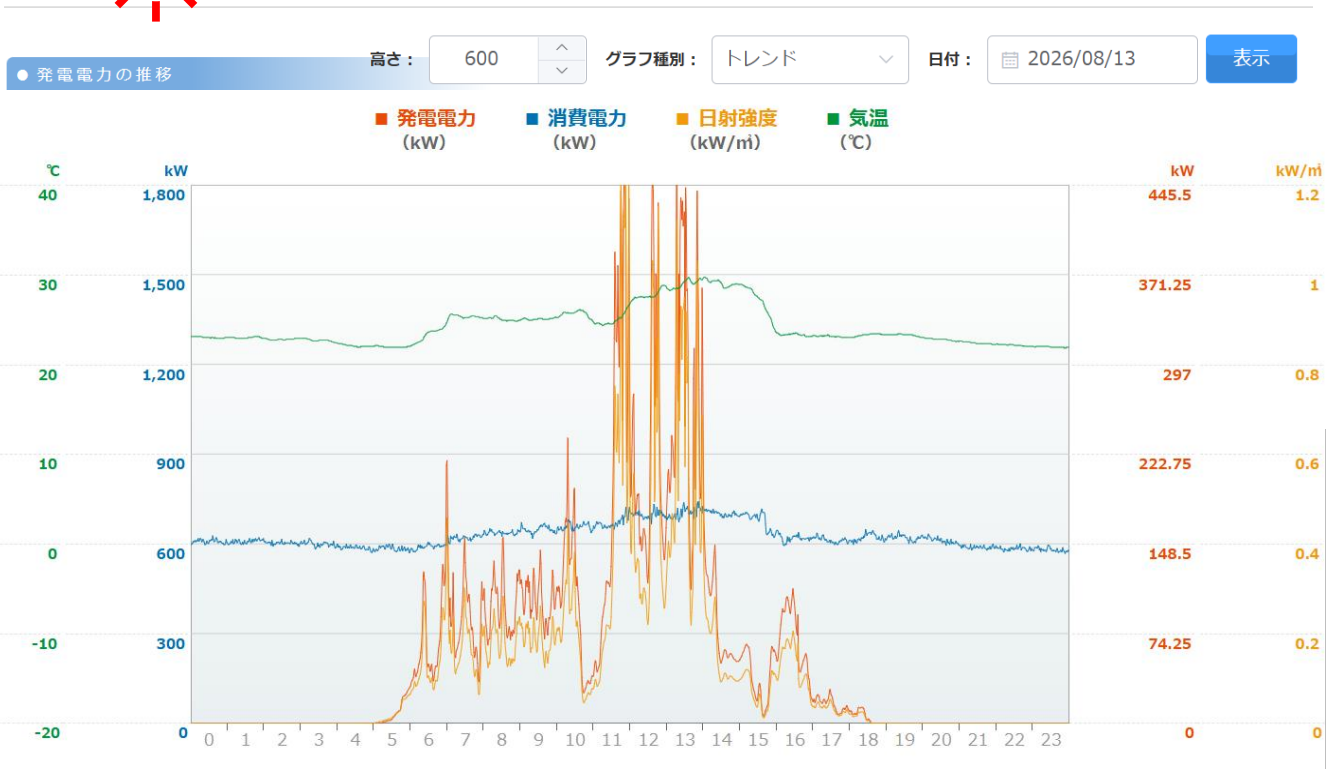
85期は、81期基準年度と比較して電力使用量を減らすことができました。社内の節電意識の向上やこまめな節電対策を行い、電気使用量の削減に貢献できたと考えます。

大阪営業所

85期活動において、こまめな節電をはじめ、電気使用量の削減を徹底しました。その結果、目標を達成に繋がったと考えます。引き続き、削減に努めて参ります。
（※1）大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価（85期）

太陽光発電設備のモニタリング画面例



時間	発電電力量(kWh)	購入電力量(kWh)	消費電力量(kWh)	供給率(%)	日射量(kWh/㎡)	気温(℃)
06	106.1	675.9	782.0	13.5	0.23	30.1
07	201.9	633.6	835.5	24.1	0.42	34.3
08	285.9	594.1	880.0	32.5	0.61	35.7
09	351.2	554.4	905.6	38.8	0.76	37.5
10	392.7	542.0	934.6	42.0	0.87	37.3
11	417.9	540.3	958.2	43.6	0.94	37.4
12	341.1	645.8	986.9	34.5	0.77	37.9
13	385.3	652.3	1037.6	37.1	0.85	38.3
14	336.5	669.4	1005.9	33.4	0.73	37.4
15	248.0	747.0	995.0	24.9	0.53	37.2

CHECK！

日々のモニタリング結果を通じて、設備の適切な維持管理に努めています

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(85期)

◆エネルギー		ガス使用量(m3)					
		81期(基準年)	目標値		85期実績		
相模原	総 量	368,755	+4.7%以下		414,115	⇧12.3%	目標未達
	原単位	0.0347	0.0337	△3%	0.0372	⇧7.2%	目標未達
富 山	総 量	38,038	36,136	△5%	22,202	△41.6%	目標達成

◆エネルギー		ガソリン使用量(L)					
		81期(基準年)	目標値		85期実績		
相模原	総 量	629	+4.7%以下		108	△82.8%	目標達成
	原単位(×10^{-5})	5.92	5.74	△3%	0.971	△83.6%	目標達成
富 山	総 量	770	732	△5%	38.7	△95.0%	目標達成

◆エネルギー		軽油使用量(L)					
		81期(基準年)	目標値		85期実績		
相模原	総 量	755	+4.7%以下		21,734	⇧2878.7%	目標未達
	原単位(×10^{-5})	7.11	6.90	△3%	195	⇧2742.6%	目標未達

相模原事業所

85期の都市ガス使用量は基準年と比較して12.3%の増加、原単位についても7.2%の増加となりました。都市ガスを使う生産が多かったことが要因と考えられます。

一方、84期との比較では生産量が増加しているもののガス使用量は減少しております。これは85期中にボイラー設備2基を高効率機へ更新したことにより、設備効率が向上し、ガス使用量の低減につながったと考えられます。都市ガスについても、来期以降、節ガスと効率的なエネルギー使用に努めたいと考えています。

85期のガソリン使用量は基準年と比較して82.8%の削減、原単位についても83.6%の削減が実現できました。83期に社用車をガソリン車からハイブリット車に入れ替えたことが要因と考えています。来期以降も、安全運転と効率的なエネルギー使用に努めたいと考えています。

85期の軽油使用量は基準年と比較して大幅な増大になりました。これは大型トラックの追加導入(現状は3台保有)と稼働率の向上に由来すると思われます。今まで全ての荷物を外注トラックで輸送していましたが、近年、一部の荷物を自前輸送に切替える施策を行っており、85期の稼働実績は4tトラックについては走行距23,379km、10tトラックは64,361kmでした。Scope3も含めますと、当社における軽油使用量には大きな違いは無いと推察しています。

新生富山事業所

85期は、81期基準年度と比較してプロパンガスの使用量は減らすことができました。社内の意識の向上等によるものと考えられます。

85期のガソリン使用量は38.7Lで、81期基準年度と比較しまして95.0%削減となり目標達成となっております。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価（85期）

◆二酸化炭素排出量（t）

		81期（基準年）	目標値		85期実績		
本 社	総 量	13.16	12.5～13.8	維持	11.58	△12.0%	目標達成
相模原	総 量	3,314	+4.7%以下		980	△70.4%	目標達成
	原単位（×10^{-4}）	3.12	3.03	△3%	0.88	△71.8%	目標達成
大 阪	総 量（※1）	2.15	2.039～2.254	±5%	2.22	⇧3.26%	目標達成
富 山	総 量	650	618	△5%	466	△28.3%	目標達成

（※1）大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

本社

電力使用量の削減による影響で二酸化炭素排出量の削減に繋げることができました。

相模原事業所

85期の二酸化炭素排出量は基準年と比較して70.4%の削減、原単位については71.8%の削減となりました。

2025年4月から購入電力をグリーン電力に変更したため、二酸化炭素排出量は基準年を大幅に下回りました。
相模原事業所における二酸化炭素排出量の原因の大部分は電気使用量にあるため、大幅な二酸化炭素排出量削減を実現することができました。

85期と69期について売上高と従業員数の比較をしてみました！

売 上 高 ：85期　16,110百万円
　　69期　3,939百万円　約4.1倍UP！

従業員数：85期　476名
　　69期　131名　約3.6倍UP！

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(85期)

◆廃棄物		廃プラスチック(kg)					
		81期(基準年)	目標値		85期実績		
相模原	総 量	22,787	19,369	△15%	11,260	△50.6%	目標達成
	原単位(×10^{-3})	2.15	1.83	△15%	1.01	△53.0%	目標達成

◆廃棄物		汚泥(kg)					
		81期(基準年)	目標値		85期実績		
相模原	総 量	702,370	597,015	△15%	158,780	△77.4%	目標達成
	原単位(×10^{-2})	6.61	5.62	△15%	1.43	△78.4%	目標達成

◆廃棄物		一般廃棄物(kg)					
		81期(基準年)	目標値		85期実績		
本 社	最終処分	1,875	1,781	△5%	482	△74.3%	目標達成
	再資源化	1,557	1,479	△5%	1,349	△13.4%	目標達成
大 阪	総 量(※1)	434	412~434	95~100%	133	△69.4%	目標達成

◆廃棄物		産業廃棄物(kg)					
		81期(基準年)	目標値		85期実績		
富 山	総 量	7,320	6,954	△5%	13,936	⇧90.4%	目標未達

本社

掲示等を通しての意識啓蒙により、再資源化廃棄物・最終処分廃棄物ともに大幅に目標達成となりました。
今後も引き続き、SDGs推進の一環として、ゴミ削減の意識付け、再資源化の推進を行っていきます。

相模原事業所

85期の汚泥排出量は基準年と比較して77.4%の削減、原単位についても78.4%の削減に成功し、84期よりも良い成績が得られました。これは汚泥をセメントにリサイクルする施策の推進によるものと考えます。

85期の廃プラスチック類排出量は基準年と比較して50.6%の削減、原単位についても53.0%の削減に成功しました。これはプラスチック類を擬木にリサイクルする施策の推進によるものと考えます。
今後も廃棄物の削減と共に、リサイクルをする新しい施策も常に考えていきたいと思います。

大阪営業所

ゴミの分別、削減に努めた結果、78期と比較すると処分量は減少しました。今後も現状維持に努めていきます。
(※1)大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

新生富山事業所

85期は新生富山事業所の操業停止、閉鎖に伴い使用予定のない備品、設備、原材料、試薬等の廃棄を進めた結果、産業廃棄物量が大幅に増加し、目標未達となりました。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価（85期）

◆上下水		上水使用量（m3）					
		81期（基準年）	目標値		85期実績		
相模原	総　量	27,939	+4.7%以下		32,820	⇧17.5%	目標未達
	原単位（×10^{-3}）	2.63	2.55	△3%	2.95	⇧12.2%	目標未達
大　阪	総　量（※1）	23	21.9～24.2	±5%	14	△39.1%	目標達成
富　山	総　量	2,436	2,314	△5%	2,108	△13.5%	目標達成

◆上下水		下水道排出量（m3）					
		81期（基準年）	目標値		85期実績		
相模原	総　量	51,764	+4.7%以下		92,622	⇧78.9%	目標未達
	原単位（×10^{-3}）	4.87	4.73	△3%	8.34	⇧71.3%	目標未達
富　山	総　量	2,885	2,741	△5%	2,195	△23.9%	目標達成

次ページで相模原事業所の排水処理施設をご紹介！

相模原事業所

上水：85期の上水使用量は基準年と比較して17.5%の増加、原単位についても12.2%の増加になり、85期の生産量増加率4.7%以上の使用となりました。
来期以降も、節水の啓蒙活動を強化し、不要な上水の使用量削減に努めたいと考えています。

下水：85期の下水道排出量は基準年と比較し78.9%の増加、原単位についても71.3%の増加になり、85期の生産量増加率を上回る排水量となりました。85期中に市からの要請により、河川放流の一部を下水道への排水に変更する施策に協力しています。

来期以降も節水の啓蒙活動を強化し、不要な上水使用量を削減し、それに伴う下水道排出量削減に努めたいと考えています。

大阪営業所

上水：節水に努めた結果、目標を達成したが前年度（84期）と比較すると微増という結果となった。引き続き、削減に努めて参ります。
（※1）大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

新生富山事業所

上水：81期基準年度と比較して約13.5%削減となっており目標達成となっています。

下水：81期基準年度比で23.9%削減となりました。
こちらも上水と同様、目標達成となっています。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価（85期）

～column～

相模原事業所の排水処理施設

生産工程で発生する生産排水を下水道法で定められた排出基準に適合させるために排水処理施設にて適切な水処理を行うことにより環境破壊および公害の発生を防いでいます。

下水道に放流する排水については、定期的に外部検査機関および市役所による検査を実施し排出基準に適合する事を確認しております。

処理過程で排出される脱水ケーキについては、成分分析を行いコンクリートの原料として適合する事を確認しており、専門業者による適切な処理を実施する事により全てリサイクルされております。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価（85期）

◆化学物質の管理

		81期（基準年）	目標値		85期実績		
相模原	フッ化水素及びその水溶性塩	21,255kg	+5%までに維持		19,700kg	△7.3%	目標達成
相模原	ドデシル硫酸Na	69,919kg	+5%までに維持		66,245kg	△5.3%	目標達成
相模原	ポリオキシエーテル	0kg	0kg	±0%	増減なし	±0%	目標達成
富　山	ドデシル硫酸Na	48.4kg	48.4kg	±0%	0.1kg	△99.7%	目標達成

相模原事業所

85期は基準年と比較し、フッ化水素及びその水溶性塩については7.3%の削減、ドデシル硫酸ナトリウムについては5.3%の削減になりました。フッ素やラウリル硫酸ナトリウム入りの歯磨剤の生産量が減少したことが要因と考えます。
ポリオキシエーテルは今期も使用しておりません。
来期以降もPRTP法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していきます。

新生富山事業所

84期に引き続きドデシル硫酸ナトリウムを使用した製品の製造が行われず使用量が大幅に削減しました。0.14kgの実績は品質管理での試薬使用量となります。

各サイト、各物質全て目標を達成しています

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価（85期）

◆物質使用量／コピー用紙（枚）

		81期（基準年）	目標値		85期実績		
本 社	総 量	167,000	158,650	△5%	92,500	△44.6%	目標達成
相模原	総 量	932,500	904,525	△3%	654,000	△29.9%	目標達成
大 阪	総 量（※1）	14,795	13,315	△10%	1,828	△87.6%	目標達成
富 山	総 量	97,000	92,150	△5%	46,000	△52.6%	目標達成

84期に引き続き
各個人が以下を
心がけました

- ☑ 両面印刷
- ☑ デジタル化
- ☑ プレビュー利用
- ☑ 余白最小化
- ☑ 再利用

CO2の排出量と同様、全４サイトで目標が達成されました！
用紙削減と同時にインク使用量の削減にも繋がっています

本社

掲示による意識付け、また昨今の書類電子化の影響もあり、前期より引き続いての目標達成となりました。

相模原事業所

85期は基準年と比較して29.9%と、84期同様大きな削減に成功しました（84期は24.9%削減）。コロナ禍以降、Web会議等が浸透したこと、ペーパーレス化も進んだことが要因と考えています。来期以降もペーパーレスの推進に努めたいと考えています。

大阪営業所

基準年度（78期）と比較するとコピー用紙の使用量は約87.6%減少した。PDF化だけでなくなるべく内容をまとめることで意識的に用紙の削減を推進した結果だと考えます。引き続き削減に努めて参ります。

（※1）大阪営業所は、事業所の人数を鑑みて、基準年を78期に設定しました。

新生富山事業所

85期の コピー用紙使用量は、81期と比較して51,000枚削減でき目標達成となっています。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価（85期）

◆生物多様性／CSR活動

			目標値	85期実績	
本社	CSR活動	CSR活動	83期～85期で提案・実施3件	提案・実施4件	目標達成
			エコ関連情報発信12件	12件	
相模原	生物多様性	生物多様性保全活動	相模原事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	・地域活動はコロナ禍のため参加を断念 ・相模原事業所、新生富山事業所、本社で栽培実施	目標達成
富山	CSR活動	近隣地域のゴミ拾い活動	周辺地域のゴミ拾い活動活動の継続（4回/年）	3回/年	目標未達
		生物多様性保全活動の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発を実施した	目標達成

◆環境に配慮した製品開発

		目標値	85期実績	
相模原	製品開発において環境に配慮した施策を行う	83期～85期：合計3件実施	85期は11件実施（累計で53件実施）	目標達成
大阪	環境に配慮した製品の開発	83期～85期：合計3件実施	85期は1件実施（累積で5件実施）	目標達成

本社

前期まで実施できていなかったCSR活動については、オーラルケアの啓蒙活動やゴミ拾い活動の実施により、目標を達成できた。またエコ関連情報発信数も定期的発信を行い、目標達成となった。

＜提案・実施＞
・西新宿ゴミ拾い：2回
・オーラルケア啓蒙活動：2回
＜発信＞
・「ひとこと」：9件
・EA21アワード報告：1件
・EA21環境レポート報告：1件
・ゆるキャラ壁紙報告：1件

相模原事業所

＜生物多様性＞
85期も地域活動には参加できませんでした。
相模原事業所内においては、今年もミシマサイコの種まき・育成・栽培を行いました。環境の違いから、本社では育成が難しいですが、来期以降も絶滅危惧植物の育成に尽力して参ります。

＜環境に配慮した製品開発＞
環境に配慮した商品を今期は11件商品化しました。
内訳は、歯磨剤製造時に加熱工程を止めてエネルギー消費を削減した商品が5件、歯磨剤チューブに使用しているプラスチックをバイオマテリアル化したプラスチックに変更した商品が5件、FSC認証マークのある紙を個箱に使用した商品1件です。
今後も客先と相談しながら、色々な方面から環境に配慮した製品造りを進めたいと思います。

大阪営業所

＜環境に配慮した製品開発＞
85期は、FSC認証の個箱を使用した製品を1品目開発しました。83～84期と合わせて5品目の開発を行いました。

新生富山事業所

＜CSR活動＞
85期の「ゴミ拾い活動」は3回のみにとどまり、目標未達となりました。未達の理由は熊の出没による活動自粛、季節の影響（真夏や真冬の気温、天候）によるものです。

＜生物多様性＞
85期も新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培を行いました。

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(86期)

本社

No.	項目			基準年度(84期)	88期(中期目標)	86期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持	総電力使用量:	24,120kwh	基準年比 95%~105% 22,914 kWh~25,326 kWh	基準年比 95%~105% 22,914 kWh~25,326 kWh	①間引き照明を徹底する ②使っていない電気機器の電源オフを実施する ③周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める
		CO2排出量の維持	総CO2排出量:	12.40t	基準年比 95%~105% 11.78t~13.02t	基準年比 95%~105% 11.78t~13.02t	
2	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減	最終処分廃棄物:	573kg	基準年比 -2% 562kg	基準年比 -2% 562kg	①排出量の現状把握と管理 ②使用済封筒・可能な裏紙の再利用 ③印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ④ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP ⑤ゴミ削減(eco)の意識の徹底の為の施策を実施 ⑥据え付け紙コップ使用を最小限に留める/マイボトル、マイ水筒等を使用する
		機密書類溶解廃棄の削減 シュレッダーの削減 段ボールの削減 古新聞の削減	再資源廃棄物:	1,288kg	基準年比 -2% 1,262kg	基準年比 -2% 1,262kg	
3	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量:	110,500枚	基準年比 -5% 104,975枚	基準年比 -5% 104,975	①使用量の現状把握と管理、周知の徹底 ②印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ③両面、集約等の機能を有効活用 ④印刷した印刷物を必ず回収する
4	CSR活動	86期~88期で提案・実施12件 エコ関連情報発信36件		-	提案・実施12件 発信数36件	提案・実施4件 発信数12件	①自社発信の活動への参加をする ②新宿区、周辺地区におけるCSR活動への参加をする ③社内へエコに関する情報発信をする。

※本社専有スペースには上水道がないため、目標を設定していません。共用スペースで使用する上水(洗面所等)は、野村ビルが一括管理しており、当社使用量は把握できません
※本社では、化学物質の使用はないため、目標を設定していません

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(86期)

相模原事業所

No.	項目			基準年度(84期)	88期(中期目標)	86期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の増加率の削減、原単位の削減	総電力使用量:	6,654,930kwh (原単位:0.645kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(86～88期) -3% (原単位:0.626kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:0.639kwh)	バルク1kgあたりの電気・ガス・ガソリン・軽油使用量及びCO2排出量の削減 ①共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理(夏季26℃、冬季22℃) ②不在時の消灯実施、省エネモードの活用 ③空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄 ④コンプレッサーのエアー漏れ箇所の改善 ⑤社有車のアイドリングストップ ⑥太陽光発電の活用 ⑦空調熱源機の運転調整(夏季) ⑧電気温水器及びウォシュレットの暖房機能停止(夏季) ⑨照明器具の更新(LED化) ⑩グリーン電力の導入によるCO2排出量の削減
		電力購入量の増加率の削減、原単位の削減	総電気購入量:	5,991,920kwh (原単位:0.581kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(86～88期) -3% (原単位:0.564wh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:0.575kwh)	
		ガス使用量の増加率の削減、原単位の削減	総ガス使用量:	420,722m³ (原単位:0.0408m³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(86～88期) -3% (原単位:0.0396m³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:0.0404m³)	
		ガソリン使用量の増加率の削減、原単位の削減	総ガソリン使用量:	228L (原単位:2.21×10^{-5}L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(86～88期) -3% (原単位:2.14×10^{-5}L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:2.19×10^{-5}L)	
		軽油使用量の増加率の削減、原単位の削減	軽油使用量:	基準値:13,081L ※2026年11月より自社トラック5台の稼働見込みを考慮し、84期実績をもとに算出 【84期実績(自社トラック3台稼働):13,455L (原単位:1.30×10^{-3}L)】	基準値比 -3%	基準値比 -1%	
		CO2排出量の増加率の削減、原単位の削減	総CO2排出量:	3227.37t (原単位:3.13×10^{-4}t)	基準値比 -65% (原単位:1.10×10^{-4}t)	基準値比 -65% (原単位:1.10×10^{-4}t)	
2	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)の削減、原単位の削減	総汚泥量:	286,320kg (原単位:0.0278kg)	243,372kg -15% 基準年原単位比 -15% (原単位:0.0236kg)	272,004kg -5% 基準年原単位比 -5% (原単位:0.0264kg)	バルク1kgあたりの汚泥量の削減 ①残バルクの削減 ②ロットアウトの低減・改善 ③汚泥のリサイクル(セメント)の実施

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(86期)

相模原事業所

No.	項目			基準年度(84期)	88期(中期目標)	86期(今期目標)	活動内容
2	廃棄物	廃プラスチック類の削減、原単位の削減	総廃プラスチック量:	85期:11,260kg (原単位:1.01×10-³kg)	85期比 95%～105% 10,697～11,823kg 85期原単位比 95%～105% (原単位:0.96～1.06×10-³kg)	85期比 95%～105% 10,697～11,823kg 85期原単位比 95%～105% (原単位:0.96～1.06×10-³kg)	バルク1kgあたりの廃プラスチック量の削減 ①再資源化の検討 ②不良品廃棄の削減 ③廃プラスチック類のコンパクト化 ④プラスチックのリサイクル(擬木化)の実施
3	上水使用量	上水使用量の増加率の削減、原単位の削減	総上水使用量:	31,498m³ (原単位:3.05×10-³m³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(86～88期) -3% (原単位:2.96×10-³m³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:3.02×10-³m³)	バルク1kgあたりの上水使用量の削減 ①効率的なバルク製造 ②節水の実施
4	排水量	排水量の増加率の削減、原単位の削減	下水道排水の削減	71,111m³ (原単位:6.89×10-³m³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(86～88期) -3% (原単位:6.68×10-³m³)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位:6.82×10-³m³)	バルク1kgあたりの排水量の削減 ①効率生産による洗浄回数の改善 ②節水の実施
5	化学物質の管理	化学物質の現状維持 (PRTR制度対象物質)	化学物質の使用量: (PRTR制度対象物質)	フッ素関連:20,326kg ポリオキシエーテル:0kg ドデシル硫酸Na:64,321kg	基準年比 +5%までに維持	基準年比 +5%までに維持	バルク1kgあたりの化学物質使用量の現状維持 ①現状の把握と管理 ②バルクロットアウトの低減・改善
6	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量:	700,000枚	基準年比 -3%	基準年比 -1%	①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)
7	生物多様性	生物多様性保全活動	-	-	相模原事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	相模原事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	①地域の活動に参加 ②相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミシマサイコを育成・栽培、新生富山事業所への展開 ③従業員への啓発
8	製品開発において環境に配慮した施策を行う		–	–	86期～88期合計10件実施	3件実施	①環境に配慮した製品の開発を行う ②取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ③環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ④環境に配慮した製品仕様を検討する ⑤SDGsに関する勉強会に参加する

※86～88期も増産が見込まれるため、電気使用量、ガス使用量、ガソリン使用量、軽油使用量、CO2排出量、廃棄物、上水使用量、排水量の削減は、原単位(バルク1kg当たり)に換算して評価します
※廃棄物(廃プラスチック類)の基準年度について85期の製造品目の構成変化に伴う廃プラスチック量が変動を考慮し、基準年度を85期とします

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(86期)

大阪営業所

No.	項目			基準年度(84期)	88期(中期目標)	86期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	総電力使用量:	6,389kwh	基準年比 95~105% 6,069~6,708kwh	基準年比 95~105% 6,069~6,708kwh	①不在時と休憩時間の消灯実施 ②使っていない電気機器の電源オフ実施 ③夏季冬季のエアコン設定温度管理
			総CO2排出量:	2.65t	基準年比 95~105% 2.517~2.782t	基準年比 95~105% 2.517~2.782t	
2	上水使用量	上水使用量の維持	総上水使用量:	13m³	基準年比 95~105% 12.3~13.6m³	基準年比 95~105% 212.3~13.6m³	節水を心がける
3	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減または維持 機密書類溶解廃棄の削減または維持 ペットボトルの削減または維持	最終処分廃棄物:	112kg	基準年比 95%~100% 106.4~112kg	基準年比 95%~100% 106.4~112kg	①排出量の現状を把握 ②使用済み封筒等再利用徹底 ③印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める ④ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底
4	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量:	3,406枚	基準年比 -10% 3,065枚	基準年比 -10% 3,065枚	①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等) ④電子ファイル化推進
5	環境に配慮した製品の開発		開発品目数	–	86~88期で合計3品目	86~88期で合計3品目	①環境に配慮した製品の開発を行う ②取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ③環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ④環境に配慮した製品仕様を検討する

※大阪サイトでは、化学物質の使用はないため、目標を設定していません

9. 環境関連法規

85期、各事業所は、各種適用法規が遵守されております。
また、各事業所に対する、国、各事業所のある都府県・市区町村、近隣の住民からの指導、訴訟及び苦情は有りませんでした。

環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

適用される法規等	本社	相模原事業所	大阪営業所	新生富山事業所	遵守評価
省エネ法	✓	✓	✓	✓	遵守
廃棄物処理法	✓	✓	✓	✓	遵守
消防法	✓	✓	✓	✓	遵守
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	✓	–	–	–	遵守
神奈川県地球温暖化対策推進条例	–	✓	–	–	遵守
フロン排出抑制法	–	✓	–	✓	遵守
相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に関する条例	–	✓	–	–	遵守
大気汚染防止法	–	✓	–	✓	遵守
水質汚濁防止法	–	✓	–	–	遵守
神奈川県生活環境の保全等に関する条例	–	✓	–	–	遵守
下水道法	–	✓	–	–	遵守
相模原市下水道条例	–	✓	–	–	遵守
下水道法（上市町下水道条例）	–	–	–	✓	遵守
悪臭防止法	–	✓	–	✓	遵守
騒音規制法	–	–	–	✓	遵守
富山県騒音規制法に基づく騒音について規制する地域の指定等について	–	–	–	✓	遵守
相模原市条例；悪臭防止法による悪臭原因物の排出を規制する地域等について	–	✓	–	–	遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）	–	✓	–	✓	遵守
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	–	✓	–	✓	遵守
工場立地法	–	✓	–	✓	遵守
相模原市工場立地法に基づく市準則条例	–	✓	–	–	遵守
労働安全衛生法	–	✓	–	✓	遵守

10. その他の活動実績（85期）

＜ごみゼロデーに参加＞

「ごみゼロデー」街頭キャンペーン（2025年11月7日,2026年5月30日）に、本社メンバーが参加してきました。2026年5月30日には「CLEAN SHINJUKU！」と書かれた軍手（飛行機や新幹線などのシート用として使われる予定だった未使用の糸を再利用して作られたもの）、トング、ビニール袋を受け取り、約40分間の清掃活動を実施しました。

活動には多くの企業・団体が参加しており、想像以上に沢山のごみが集まりました。

短時間ではありましたが地域の環境美化に貢献でき、「ちょっといいこと」を実感できる有意義な活動となりました。

街頭キャンペーン参加団体一覧　引用元：新宿区HP
https://www.city.shinjuku.lg.jp/content/000459026.pdf

＜相模原「あじさいサミット」に出店＞

2025年11月30日、研究本部と広報グループが協力し、「あじさいサミット」にて「歯みがき体験バー」を企画・運営しました。

「あじさいサミット」は、相模原市を中心とした医療・介護・福祉関係者が企画する体験型イベントで、地域住民の健康増進を目的としています。

今回のイベントを通じて、地域の方々にオーラルケアの重要性を伝えるとともに歯科医師会・歯科衛生士会との協力関係をさらに深めることができました。今後も地域に根ざした活動を積極的に展開していきます！

＜「EHS」について社内教育の実施＞

工場維持に関わる公害・環境化学物質・衛生・危険物等に関する法規制と当社の公害・危険物・廃棄物関連設備等に関する教育です。月数回程度を続けていこうと考えております。

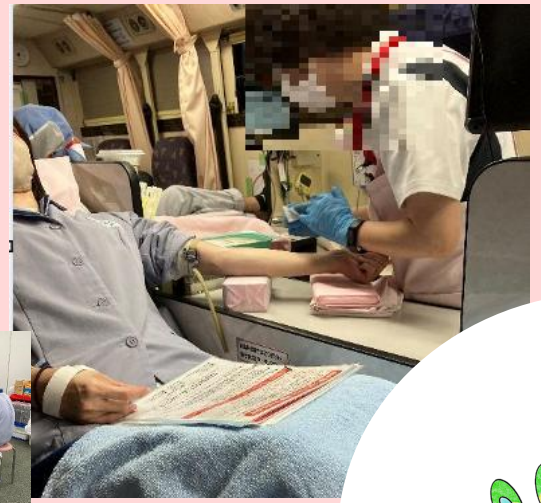
85期は計7回実施しました

10. その他の活動実績（85期）

＜献血（相模原事業所）＞

2026年3月19日に神奈川県赤十字血液センター主催の献血が行われました。

受付をスムーズに行う為、初めて献血を行う方等は事前に「受付確認票」に記入する等の工夫をし、14:00～16:00の2時間で19 名（200ml：7 名、400ml：12 名）が献血に協力をしました。



＜AED取扱い説明会＞

2025年6月11日に相模原事業所内においてAED取扱い説明会を実施しました。2024年5月～2025年5月のキャリア入社及び正社員登用者を対象にAED取扱い説明会を実施しました。
セコム警備㈱より2名来社いただき、AEDを使った救命の流れについて講義を受けました。

失敗してもかまわない。
人を助ける気持ち、行動をおこすことの大切さを学ぶ機会となりました。

＜青山学院大学大学院で当社社員が講義を実施＞

2025年10月以降、数回に渡り青山学院大学大学院国際マネジメント研究科において講義を担当しました。最終日は、MBAを学ぶ学生たちと当社経営陣が「当社で取り組みたい新規事業」について議論しました。
広報チームも講義と最終プレゼンに同席し、**現場の熱気を感じてきました！**

今回の取り組みはSDGsの「質の高い教育をみんなに」「パートナーシップで目標を達成しょう」にもつながります。教育機関との連携は社会貢献だけでなく、当社の認知度向上や人材育成にもプラス。今後もこうした機会を積極的に活かしていきたいですね。

10. その他の活動実績（85期）

当社のミシマサイコ栽培用のキャラクター「さいぴょん」とエコロジー活動用のキャラクター「アマレロちゃん」が

85期中に正式に商標登録されました！

引き続き、キャラクターを活用した環境活動の推進と啓蒙を進めてまいります！

さいぴょん	商標登録第 6986853 号
アマレロちゃん	商標登録第 6986854 号

早速、「さいぴょん＆アマレロちゃん」オリジナルPC壁紙が完成！
全3パターンを用意し、社内で積極的な使用を推進しております。

10. その他の活動実績（85期）

＜ fukushimaさくらプロジェクト＞

2015年6月17日、東日本大震災の復興応援として、「fukushimaさくらプロジェクト」に参画し、相模原市中央区の「上溝さくら公園」に、新種の桜「はるか」を植樹しました。
「fukushima さくらプロジェクト」とは、福島で育つ新しい桜「はるか」を広めるプロジェクトです。「はるか」の苗木を増やし、この桜に込められたメッセージと共に福島から全国へ届けることを通じて、東日本大震災の「風化」や「風評」に対する復興応援を行っています。

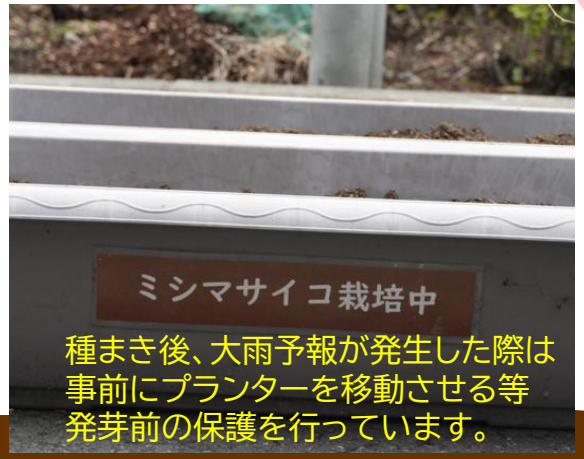
あれから約11年が経過し当社が植樹した「はるか」は大きく育ち、毎年4月にはきれいな花を咲かせています。数年前まではまっすぐ上へと伸びている印象でしたが2024年4月と比較すると、枝葉は横に広がりを見せています。枝の下にできている木陰も範囲を広げています。

2015年6月17日当時の樹木式の様子

2024年4月14日に撮影

2026年4月7日に撮影

＜生物多様性活動　ミシマサイコの育成＞



種まき後、大雨予報が発生した際は
事前にプランターを移動させる等
発芽前の保護を行っています。

当社では環境経営目標として
「生物多様性保全活動」を掲げており、
その一環として相模原事業所内に
『ミシマサイコの花壇（植付面積約9.9㎡）』を設けています。
本活動では下記の4つの作業を中心に行っています。
①種まきによる植生の確保
②雑草の一部除去による生育環境の維持
③ネットの付け替えによる近隣企業への配慮と生育の補助
④種取りによる種の継承と循環

“野生のミシマサイコは**絶滅危惧種に指定**されています”
引用元：公益社団法人　東京生薬協会　HP
https://www.tokyo-shoyaku.com/ohana.php?hana=547

10. その他の活動実績(85期)

その他エコ活動を含む社会貢献活動一覧は下記の通りです。

:エコ活動　:社内啓蒙　:社会貢献

No.	取組項目 上段：項目名/下段：概要・実績等	区分	備考
01	アルミ空き缶とペットボトルキャップの回収活動 85期　回収量合計:アルミ空き缶　48.7 kg、ペットボトルキャップ　151.2 kg(約65,000個分) 寄付先　NPO法人アルミ缶でボランティア　開始時期:2018年～		85期回収分のアルミ空き缶からは学校給食147食分相当、ペットボトルキャプからはポリオワクチン37人分相当の実績となりました。
02	使用済み切手の回収活動 85期　回収量合計:約180g　開始時期:2019年～ 寄付先　NPO法人相模原ボランティア協会　(以前は「ジョイフル」に寄付をしていました)		切手寄付の収益金は相模原ボランティア協会が所有している福祉車両の購入金や運行活動の運営費にあてられます。
03	使用済みユニフォームの回収活動 85期　回収量合計:約50kg　開始時期:2024年～ 株式会社ガードナーのご協力を得て行っています(広域認定制度を活用したリサイクルです)		広域認定制度とは、製品の製造事業者(製造・加工・販売等の事業を行なう者)が、廃棄物となった自社の製品をユーザーから回収してリサイクルすることを目的とした制度です。
04	プラスチックのリサイクル活動 85期　回収量合計:189,220kg　開始時期:2021年～ 株式会社アクト・エアのご協力を得て行っています		このリサイクルプロセスでは、プラスチック廃棄物は焼却せずに破砕、溶融、圧縮成形され、擬木に変換されます。
05	パレットのリサイクル活動 85期　回収枚数合計:1,296枚　開始時期:2024年～ キーフェル株式会社のご協力を得て行っています		2024年6月から、当社での使用が終了した「パレット」についてリサイクル販売を始めました。

10. その他の活動実績（85期）

:エコ活動　:社内啓蒙　:社会貢献

No.	取組項目 上段：項目名/下段：概要・実績等	区分	備考
06	排水処理汚泥のリサイクル活動 p.21のcolumnでご紹介した内容です 85期　回収量合計：370,010kg　開始時期：2022年～ 株式会社アクト・エアのご協力を得て行っています		排水汚泥とは、産業活動から生じる排水を処理する過程で生成される泥状の廃棄物です。工場や下水処理場で発生するこれらの汚泥は、高温で焼却するとセメントの原料に再利用することができます。
07	『ひとこと』の配信 85期　配信回数：12回　開始時期：2024年～ 対象者：全従業員		環境意識の向上を目的に2024年から読み物を配信しています。身近な話題を取り上げ、日々の行動の振り返りと見直しの機会を提供しています。
08	第53回相模原市民桜まつり　への出店 研究本部及び広報グループによる企画・運営		

2026年4月5日に開催された「第53回 相模原市民桜まつり」において、「歯みがき体験バー」を出展しました。
当日は好天にも恵まれ、多くの来場者でにぎわう中、当社ブースには約400名の方にご来場いただきました。

さまざまな歯みがき粉を実際に試していただき、日本ゼトックとオーラルケアへの関心を高めていただく貴重な機会となりました。 また、相模原市歯科医師会のブースには約700名が来場され、「オーラルフレイル」の啓発やお子様向け口腔機能検査のご案内が行われました。

両ブース連携のスタンプラリー企画も実施し、多くの方にご参加いただくことで、相乗効果を生むことができました。
本取り組みは、CSR活動の一環として地域の皆さまへのオーラルケア啓発および関係団体との連携強化に寄与するものであり、今年も大変有意義な機会となりました。

11. 代表者による全体の評価と見通し・指示

＜全体の評価＞

85期も、取引先から多くの受注を頂き、高い稼働率の操業が続く中、一部で対応が追い付かない局面もあった。これに対して、生産・品質管理をはじめとする現場の尽力と、他部署からの支援により乗り越えることができた。一方で、中東情勢等の影響でコスト増加も生じて苦慮が続いた。来期以降も地政学的リスクや気象リスクに伴う為替や物価への影響に悩まされることだろう。

相模原事業所では、取引先の協力を得て、84期の終盤からグリーン電力を導入しており、85期は一年を通してその恩恵を受けたため、温室効果ガス排出量の大きな削減を実現できた。
また81期に太陽光発電設備を設置したが、今期も70万kWh弱の自家発電が叶い、自給率にして10%程度に相当するため、大きな効果であると実感している。
軽油使用量については、出荷物流の内製化を進めているため大幅な増加となった。しかしながら、外注していた物流を内製化したので、当社全体のサプライチェーン温室効果ガス排出量でみれば今までと差は無いと考える。
廃棄物については、数年来、相模原事業所でプラスチックと汚泥のリサイクルを行っていることで、毎期、極めて大きな廃棄削減効果を得ることができており大変評価している。

本社では、全ての項目について目標を達成することができた。85期は、西新宿街ぐるみプロジェクトのゴミ拾い活動に2回参加できたことも大きな成果と考えている。引き続き、ゴミゼロ活動の継続を期待する。
大阪営業所についても、全ての項目について目標を達成することができた。特にコピー用紙使用量の削減は、基準年と比較して80%の削減であり評価している。本社同様、この良い習慣を継続してもらいたい。
　新生富山事業所は、残念ではあるが85期をもって操業を停止することになった。操業停止に伴う廃棄物が増加してしまったが仕方ないと考える。新生富山事業所については、操業中、常にエコロジーと社会貢献を意識した活動を積極的に行っていたため嬉しく思っていたところだ。

＜指示＞

相模原事業所には、グリーン電力を導入したとはいえ、節電等の節約意識は、製造業の根幹であるため、より一層の定着が成されるよう指示した。
本社と大阪営業所には、SDGsやESGを踏まえた新しい取り組みを考えるよう指示した。
会社全体を通しては、生成AIの積極的且つ効果的な利用を進め、業務の効率化と高度化に取組むよう指示した。
また、引き続き、実施した環境関連活動や社会貢献活動については、広報部門を通じて、社会への積極的な発信に力を入れるよう指示した。

最近は、BANIな時代であると言われるようになってきた。つまり脆く（Brittle）、不安で（Anxious）、非線形性で（Non-linear）、不可解な（Incomprehensible）時代ということだ。
　このような時代において、当社が持続的競争優位を獲得して生き抜くため、生成AIの利用と、人財の適性配置や発掘、抜擢も行い、従来の事業領域から踏み出した新規分野にもチャレンジしていきたい。
来期もSDGsやESGを念頭におき、社会への貢献と環境への負荷軽減、利害関係者との良好な関係構築、人財の活用を行い、それと同時に、またそれを利用して企業価値を高め、持続的競争優位の獲得を進めていきたい。
来期の終盤にあたる2027年3月から、相模原事業所にも近い横浜市上瀬谷で、GREEN×EXPO2027が開催される。当社もこのEXPOに何らかの関りが持てればとも考える。
環境負荷低減については、「エコアクション21推進委員会」が、社会貢献については全部門が、協力とリーダーシップをもって、より一層従業員への喚起と、社会への発信を行なうことを期待している。

2026年　7月　1日
代表取締役社長　森山　正孝

BANI
Brittle/Anxious/Non-linear/Incomprehensible

＜環境経営方針及び実施体制の見直し＞

項目	見直しの有無	評価コメント
環境経営方針	無	現時点での環境経営方針自体の見直しは不要。
実施体制	無	現時点での実施体制の見直しは不要だが、組織変更があった際は、適宜体制や委員の見直しを検討すること。

日本ゼトック株式会社

来年以降も引き続き
エコ活動を推進してまいります！

本社

〒163-0512 東京都新宿区西新宿一丁目26番2号　新宿野村ビル12F
TEL:03-5323-2020(代表)　FAX:03-5323-3010(代表)

相模原事業所

〒252-0146 神奈川県相模原市緑区大山町1番5号
TEL:042-775-8700(代表)　FAX:042-775-7012(代表)

大阪営業所

〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町三丁目2番4号　JUST本町ビル7F
TEL:06-6262-6881　FAX:06-6262-6601

URL

https://www.zettoc.co.jp/

みつけてみて！
ZTC 日本ゼトック